

2019年3月期決算概要

テルモ株式会社
常務執行役員
北畠 一明

2019年5月9日

2019年3月期の決算概要について説明いたします。

18年度期初業績予想との比較

	売上収益		調整後営業利益		コメント
	金額 (億円)	増減額 (億円)	金額 (億円)	増減額 (億円)	
心臓血管	18年度実績	3,285	25%	809	愛鷹工場出荷遅延の影響
	18年度予想	3,410	26%	875	
ホスピタル		1,658	16%	268	+18 アライアンスを中心に予想以上
		1,630	15%	250	
血液システム		1,050	15%	157	-8 為替除けば想定通り
		1,040	16%	165	

カンパニー別の期初業績予想との比較です。

心臓血管について、売上収益、調整後営業利益の減額分は、ほぼ修正業績予想と見合った数字です。売上収益では、愛鷹の出荷遅延に加え、薬剤溶出型ステントの不調もあり、TISのマイナスが少し大きくなりましたが、ニューロバスキュラーが好調で、これを若干カバーしました。

ホスピタルは、アライアンスの好調により、売上収益、調整後営業利益ともに期初業績予想を大きく上回りました。

血液システムは、売上収益は上振れ、調整後営業利益はマイナスとなりましたが、為替の影響が大きく、これを除くと期初業績予想を達成しています。

調整後営業利益：調整額

(億円)

	17年度	18年度
営業利益	1,086	1,066
調整① 買収無形資産の償却費	+145	+146
調整② 一時的な損益	+19	(※) +9
調整後営業利益	1,249	1,221

※調整項目

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

(※) 18年度 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
ニューロWEB マイルストーン支払い引当計上 (-20)	+20
和解金受取 (+23)	-23
プエルトリコ工場災害保険金受取 (+16)	-16
ベンチャー開発投資除却 (-10)	+10
固定資産除却損等 (-11)	+11
買収アドバイザー費用等 (-7)	+7



4/26

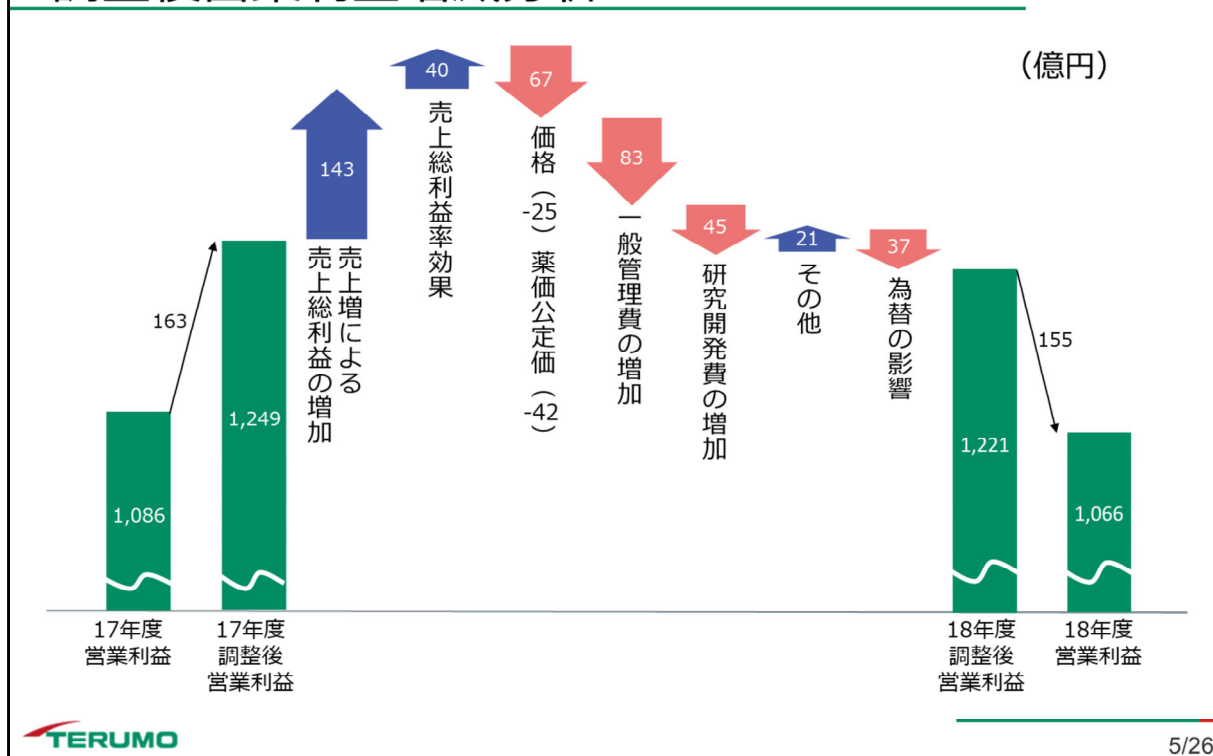
調整後営業利益の調整額です。

調整額の大半は、①「買収無形資産の償却費」です。

②「一時的な損益」は、2018年度の合計が9億円、内訳は右下に示しております。

これらの項目は第3四半期と同じですが、数字は若干変わっています。

調整後営業利益増減分析



調整後営業利益の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」「売上総利益率効果」は、下期に大きく改善しています。

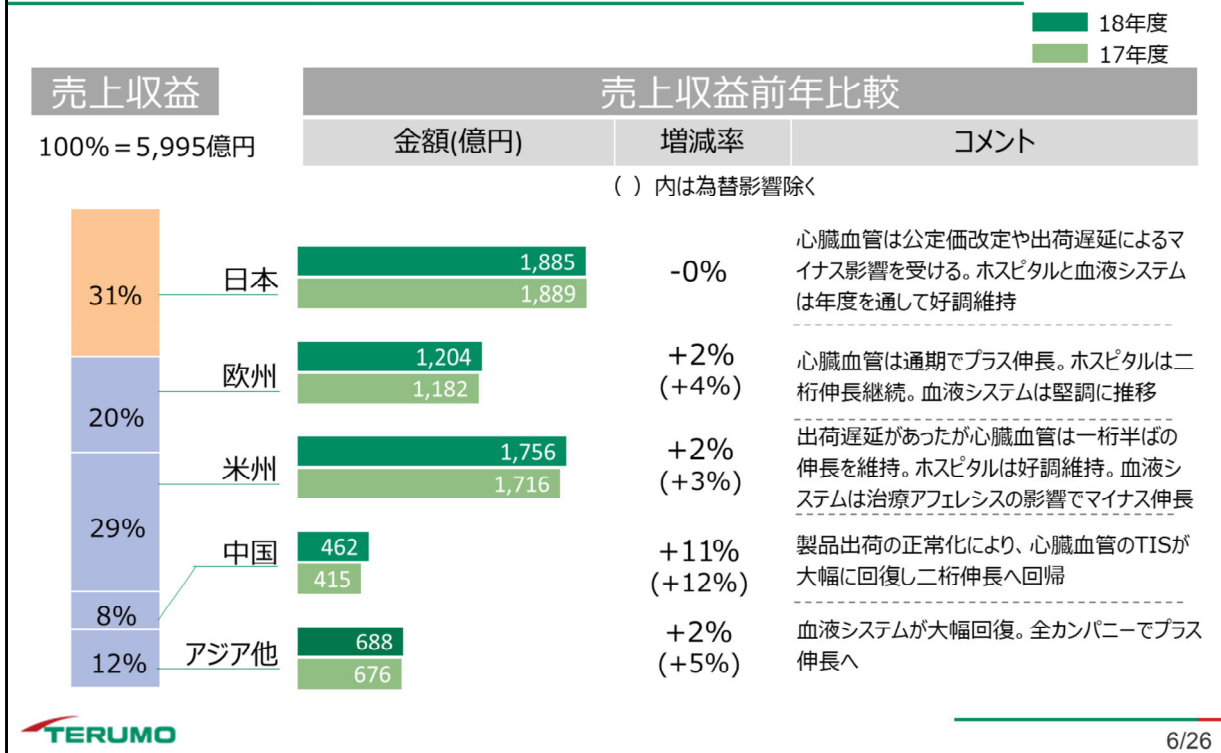
「価格」は、下期の売上回復によりマイナス額が増え、-25億円となりました。

「薬価公定価」は、ほぼ想定どおりです。

「一般管理費の増加」はおおよそ想定どおり、「研究開発費の増加」は想定を下回り45億円となりました。

想定以上に増えたのは「為替の影響」で、第3四半期までは9億円のマイナスでしたが、第4四半期に拡大し、年間で37億円のマイナスとなっています。要因は2つあり、1つはユーロ安、もう1つは新興国通貨安です。世界中で新興国通貨がおしなべて弱くなった結果、特にどの通貨の影響が大きいということはないものの、合計での影響額が大きくなっています。

地域別売上収益



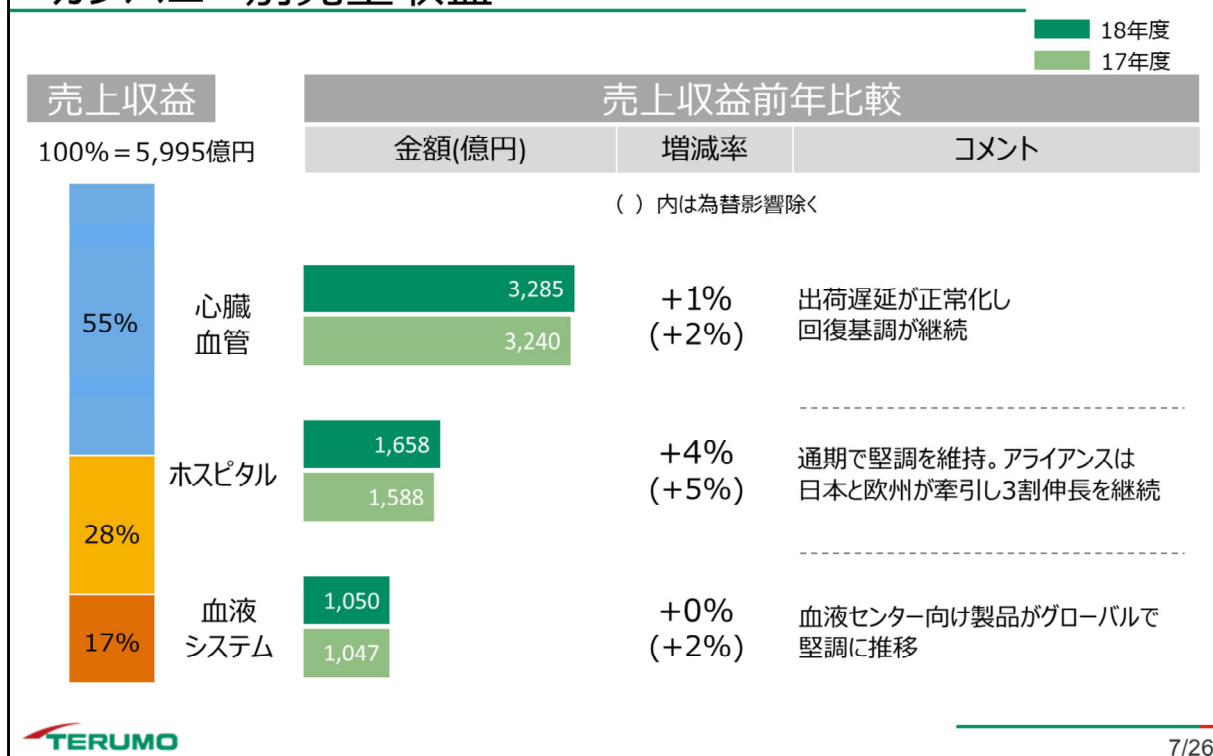
地域別の売上収益です。

日本は、心臓血管のマイナスをホスピタル、血液システムがカバーし、おおよそ前年同様となりました。

海外は全てプラスですが、特徴的なのは中国で、第3四半期までは5%のプラスでしたが、年間では11%の二桁伸長となっています。

この要因は2つあり、1つは12月に買収の手続きを完了したエッセン・テクノロジー社、中国の薬剤溶出型ステント専門の企業ですが、この売上が第4四半期から入ってきていることです。もう1つは、愛鷹工場の出荷遅延で出せなかった部分を第4四半期に大きくカバーしたことです。

カンパニー別売上収益



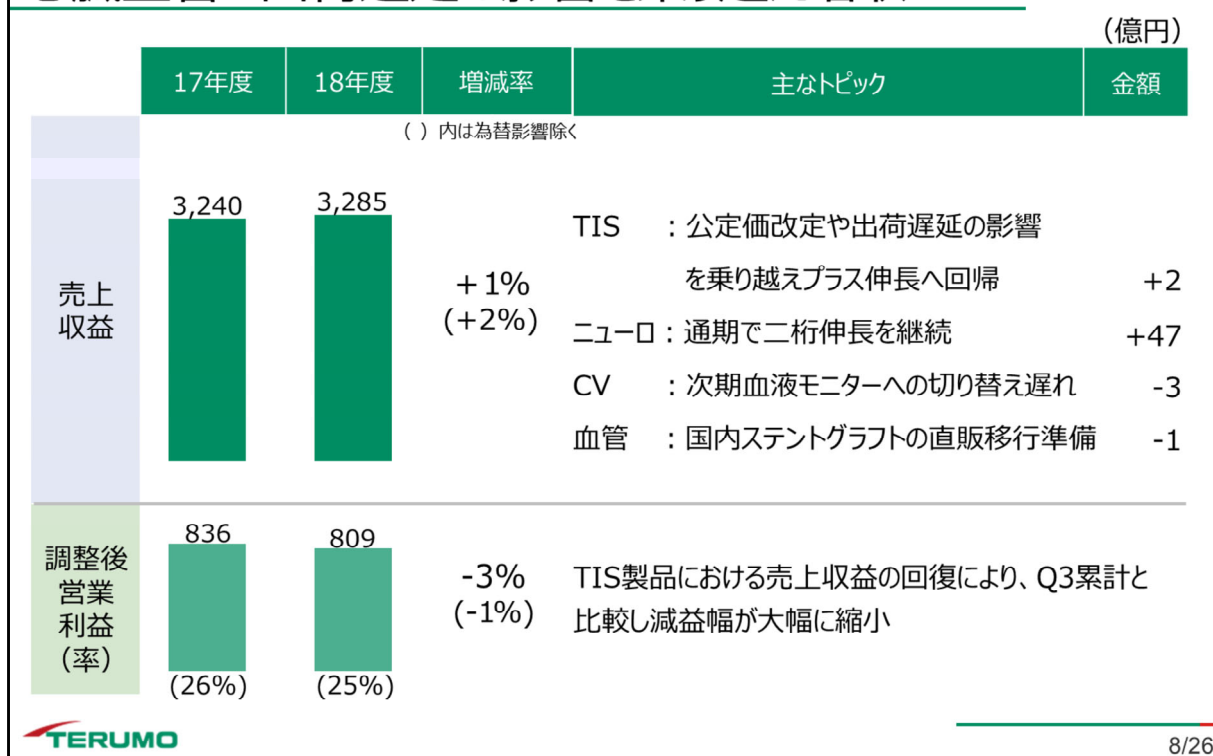
カンパニー別の売上収益です。

心臓血管は、第4四半期に出荷遅延からの回復が進み、年間では前年比1%のプラスとなっています。

ホスピタルは、アライアンスの好調により4%のプラスです。

血液システムは、為替の影響を大きく受けており、おおよそ前年同様となっていますが、為替の影響を除くと2%の増加です。また、期初業績予想の1040億円と比べますとプラス10億円となっています。

心臓血管：出荷遅延の影響を乗り越え増収

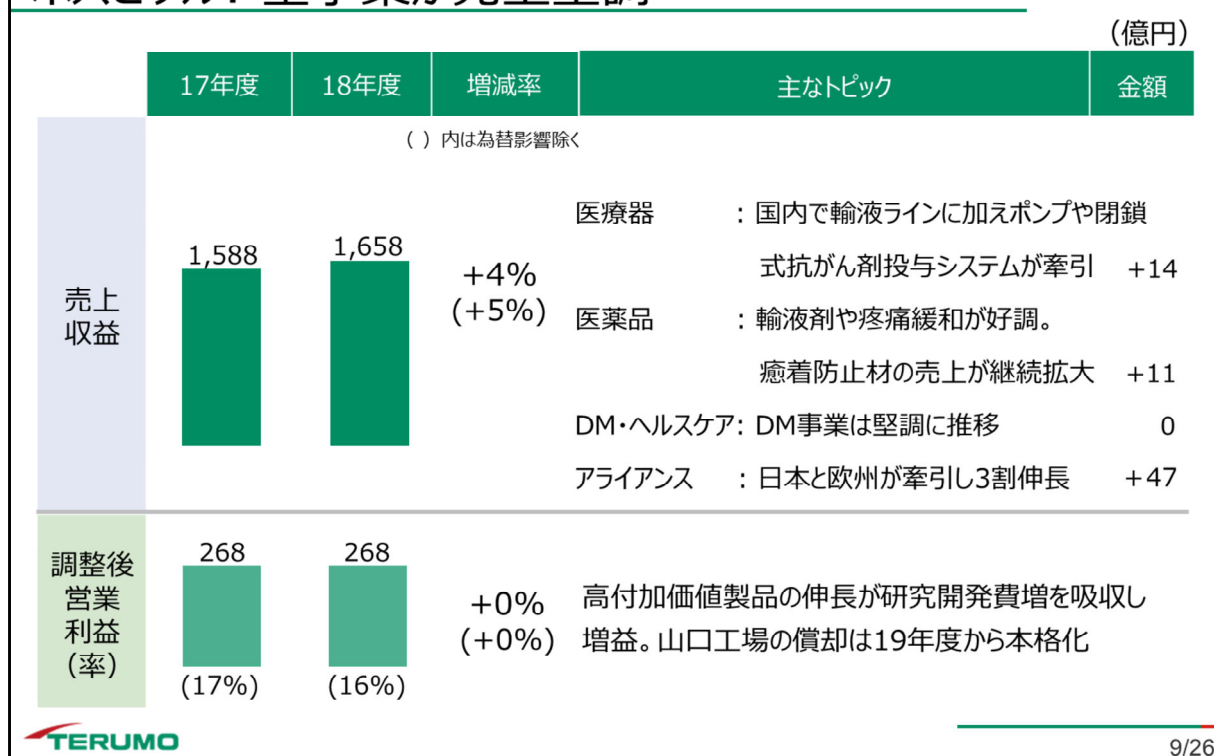


カンパニー別に詳しく説明いたします。

心臓血管の売上収益は、前年比プラスに転じました。主な要因は、TISが第4四半期に拡大し、年間で2億円のプラスとなったこと、またニューロバスキュラーが好調を維持し、二桁伸長を継続したことです。

調整後営業利益は、第3四半期までは-8%でしたが、年間では-3%とマイナス幅を縮小しました。また、為替影響を除けば-1%で、ほぼ前年同様となっています。

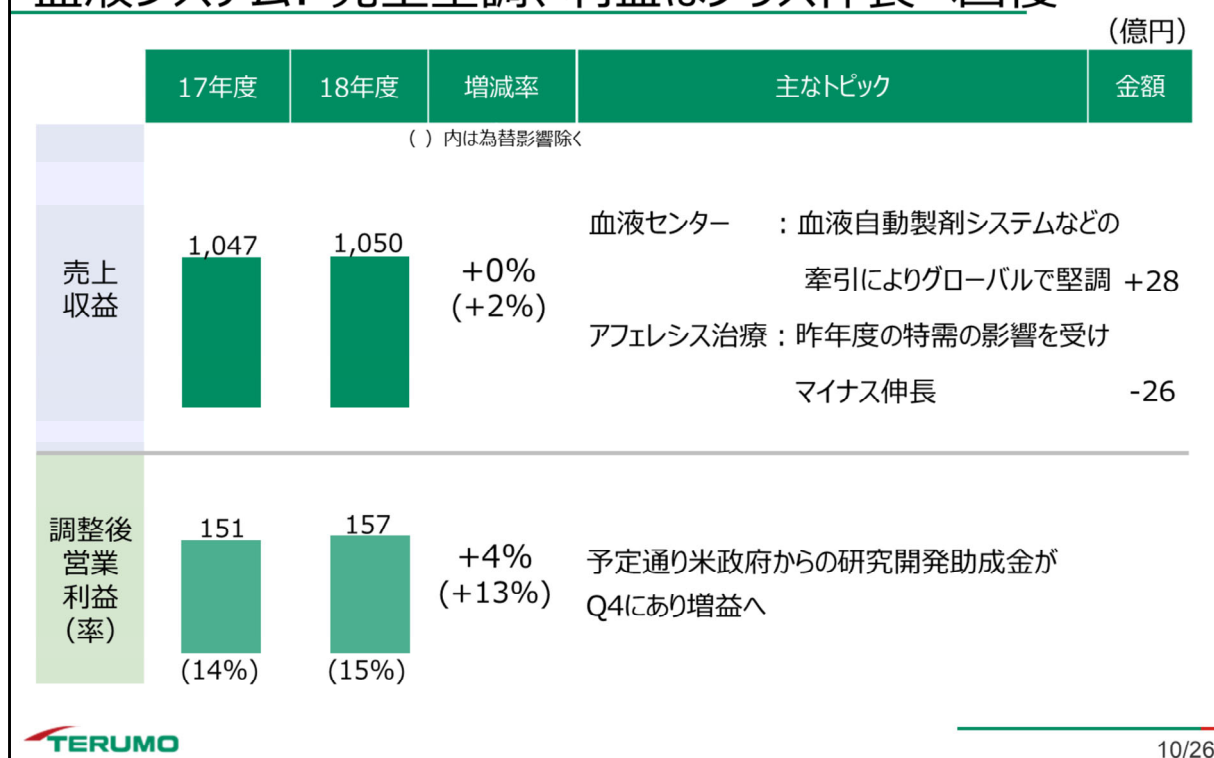
ホスピタル: 全事業が売上堅調



ホスピタルの売上収益は、アライアンスが前年比30%伸長したほか、輸液剤、疼痛緩和、癒着防止材も大きな伸びを示した結果、前年比4%となりました。

調整後営業利益は、ほぼ前年同様ですが、期初業績予想では研究開発費をかなり増やすために、減収としていました。実際に研究開発費は、前年比11億円増加しましたが、売上の好調がこれを上回り、前年同様となっています。なお、2019年度は、山口工場の償却費負担が増えるため、減収の計画となっています。

血液システム：売上堅調、利益はプラス伸長へ回復



血液システムの売上収益は、ほぼ前年同様ですが、為替影響を除けばプラスとなりました。アフレス治療装置のオプティアについて、前年度に新機種の需要が高かったため、2018年度はその分26億円のマイナスとなりました。しかし、これを血液センター分野の好調がカバーしました。

この要因は、地域によって様々で、日本では血液自動製剤システムTACSIが大きく伸びました。米州では、成分採血装置トリマの新バージョンが大きく伸びています。アジアではベトナム工場が2018年度に本格稼働を始め、売上増の要因となっています。

調整後営業利益は、第3四半期までは前年比が大きくマイナスとなっていました。第4四半期で回復の予定と申し上げていたとおり、4%のプラスとなりました。為替の影響がなければ171億円、前年比13%のプラスとなっています。

18年度 主なトピックス

全社

- サテライトオフィス開設、ウェアラブル端末配布など、働き方改革と健康経営を推進
- 5年連続「健康経営銘柄」に選定(2月)
- 5製品がグッドデザイン賞を受賞。テルモとして23年連続の受賞(10月)

事業

- 薬剤溶出型ステント「Ultimaster Tansei」、欧州発売(5月)、日本発売(9月)
- 米デクスコム社より、持続血糖測定器の日本・独占販売権取得(5月)、発売(2月)
- アライアンス事業のPFS生産設備増設を決定：テルモ山口D&Dで約70億円(7月)
- 受託製造している薬剤充填用注射器「PLAJEX」採用のバイオシミラー、欧州導入(12月)
- 脳動脈瘤治療用の袋状塞栓デバイス「WEB」、米FDA承認取得(12月)
- 薬剤溶出型ステント専門メーカー中国エッセン・テクノロジー社を買収(12月)
- TIS生産体制強化の為、ベトナム工場新棟建設に向けた150億円の投資決定 (2月)



2018年度の主なトピックスについてはご覧のとおりです。

18年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ	領域	製品	地域	ローンチ
アクセス	ディスタルラジアル用止血デバイス	日	FY19	CV	次世代人工肺	欧米 日	済み FY19
心臓	PTCAバルーン	米	済み		次期血液モニター	欧米亜	済み
	PTCAバルーン	日 欧亜	済み FY19	血管	胸部用ステントグラフト (低プロファイル)	欧	済み
	DES (Ultimaster Tansei)	日欧亜	済み		腹部用ステントグラフト (アナコンダ細径)	欧	済み
ペリ フェラル	ステント (TRI)	日米	FY19	医療器	静脈可視装置	日	済み
	PTAバルーン (TRI)	日米	済み	DM	パッチ式インスリンポンプ	日	FY19上期
	PTAガイドングシース (TRI)	日米	済み	血液	次期成分採血装置ソフトウェア	欧米亜	済み
	薬剤塗布バルーン	欧	FY19		血液自動製剤システム・新ディスポ	欧米亜	済み
脳	中間カテーテル (Sofia EX)	欧米	FY19上期				
	ミニ・バルーン	欧米	FY19上期				



12/26

2018年度のパイプラインについては、愛鷹工場の出荷遅延により、エンジニアの工数が若干とられ、TISの一部で2019年度にずれ込んだ部分がありますが、ほぼ予定どおりローンチできています。

19年度業績予想

(億円)

	18年度 実績	19年度 業績予想	増減率 (為替除く増減率)	16~19年度 CAGR
売上収益	5,995	6,350	+6% (+8%)	+7%
営業利益 (率)	1,066 (17.8%)	1,090 (17.2%)	+2% (+7%)	+7%
調整後営業利益 (率)	1,221 (20.4%)	1,240 (19.5%)	+2% (+6%)	+6%
当期利益	795	810	+2%	+14%
為替レート	USD 111円 EUR 128円	108円 123円		



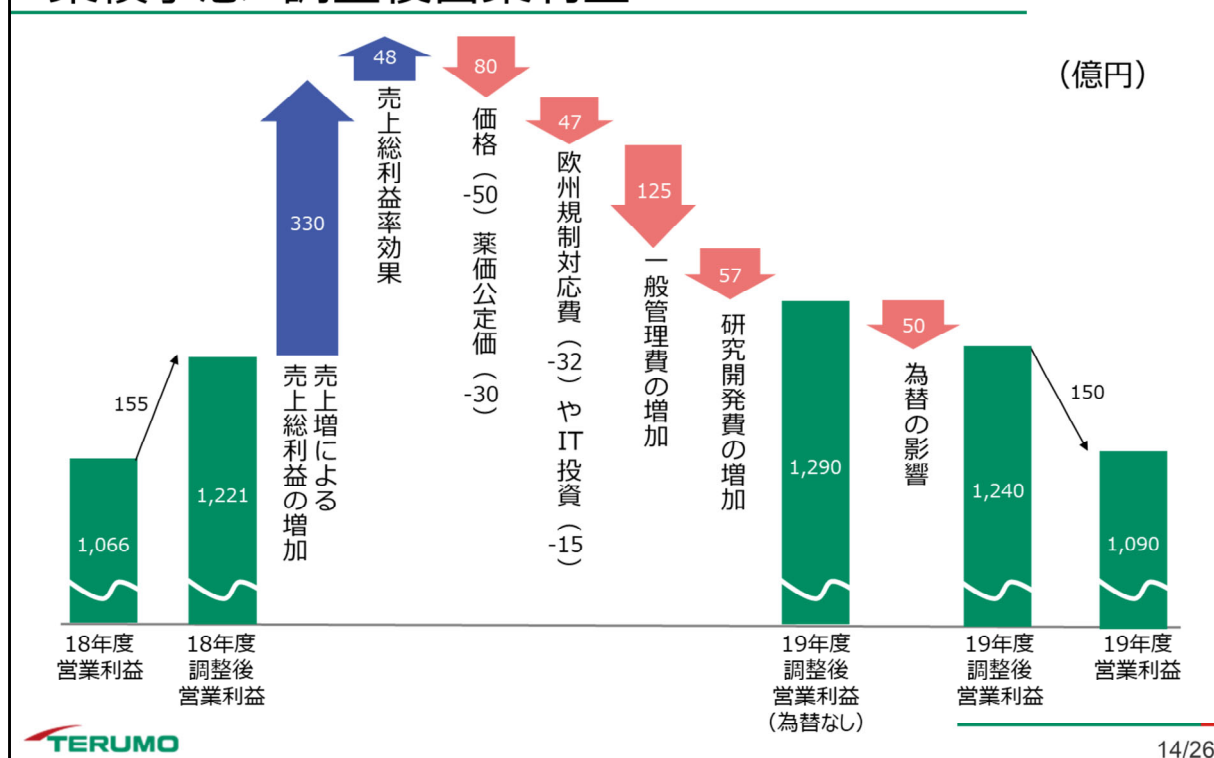
13/26

2019年度の業績予想について説明いたします。

売上収益は、円高にもかかわらず、TISの回復により順調に伸びる計画となっており、6%のプラス。さらに、為替を除くベースでは8%のプラスです。

調整後営業利益は、為替影響を除くと6%プラスですが、為替の影響を受けて2%プラスとなっています。低い成長率となっている要因を、次のスライドで説明いたします。

業績予想 調整後営業利益



業績予想の調整後営業利益の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」と「売上総利益率効果」、特に前者は、売上の好調を反映し、非常に大きく伸びています。

一方でマイナス要因について、前年にはなかった新たな内容があります。

1つは「薬価公定価」です。本来であれば、2019年は薬価公定価の改定がない年ですが、これが予定されているため、影響を30億円と見ています。

「欧州規制対応費」は、2018年度まではそれほど大きな金額を要しませんでした。32億円を見込んでいます。これは2020年スタートということなので、計上金額は2019年度が最大、それ以降は徐々に小さくなると見ています。

また「IT投資」について、現在テルモではグローバルにSAPを導入しています。2018年に日本の部分が完成した結果、償却費が15億円増えています。今後アメリカにおいて、買収する以前よりSAPを導入していたテルモBCTホールディングを除く、マイクロベンション、テルモメディカルCorp.、テルモカーディオバスキュラーシステムズにSAPを導入していくため、毎年少しずつ償却費が増えていきます。しかし、規模は既に導入された日本が一番大きく、今後、2019年度以上に大きく増える予定はありません。

「為替の影響」は、ユーロ安と新興国通貨安の影響が大きく、50億円となっています。

以上より、「薬価公定価」30億、「欧州規制対応費」と「IT投資」の合計約50億、「為替の影響」50億が、利益を押し下げる要因となっています。

19年度業績予想

	売上収益		調整後営業利益		コメント
	金額 (億円)	増減率	金額 (億円)	増減率	
	() 内は為替影響除く		() 内は為替影響除く		
心臓血管	19年度	3,570	24%	850	TIS事業の売上収益は二桁伸 長へ回帰。公定価改定、為替の 影響
	18年度	3,285	+9% (+12%)	25% 809	
ホスピタル		1,710	15%	255	モメンタムは堅調継続。 アライアンス事業において 山口工場増設の償却費増
		1,658	+3% (+4%)	16% 268	
血液システム		1,070	14%	155	血液センター向け中心に堅調。 為替の影響
		1,050	+2% (+5%)	15% 157	

カンパニー別の業績予想です。

心臓血管の売上収益は9%の伸び、為替影響を除くと12%の二桁伸長を見込んでいます。したがって、愛鷹工場の出荷遅延からは、完全に回復したと言えます。

調整後営業利益は、先述の薬価公定価の改定、為替等の影響があるものの、5%のプラス、為替影響を除けば10%の二桁伸長となっています。

ホスピタルは、売上収益は引き続き好調に伸びています。

調整後営業利益には、先述の山口工場の償却費の影響が19億円あります。アライアンスは売上が伸びているため、今後はカバーしていけると見込んでいるものの、2019年度については、これが影響しています。

血液システムは、血液センターを中心に堅調ですが、為替影響を大きく受けており、売上収益は2%のプラス、調整後営業利益は-1%となります。ただし、為替影響を除くと、いずれも5%伸びており、堅調に推移しています。

19年度パイプライン製品

領域	製品	地域	領域	製品	地域
アクセス	ディスタラジアル用止血デバイス	日	医療器	次期シリンジポンプ	日
心臓	PTCAバルーン	欧亜	医薬品	麻酔用鎮痛剤（フェンタニル注射液）	日
ペリフェラル	ステント（TRI）	日米		癒着防止材（アドスプレー・ミニ）	日
脳	袋状塞栓デバイス（WEB）	米	DM・ヘルスケア	持続血糖測定器	日
	中間カテーテル（Sofia EX）	欧米		血糖測定システム	日
	ミニ・バルーン	欧米		パッチ式インスリンポンプ	日
	血栓吸引カテーテル	日		次期血圧計	日
	ステントリバー	日		次期体温計	日
CV	次世代人工肺	日	血液	細胞治療用充填・仕上げシステム（FINIA）	グローバル
	人工心肺装置（再出荷）	日			
血管	大口径人工血管（トリプレックス・アドバンスド）	日			



2019年度のパイプラインについてはご覧のとおりです。

18年度期末配当案は27円

- 安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目指す
- 18年度年間は54円（当初予想から変更なし）
- 19年度は年間28円（株式分割前換算56円）とし増配維持

（）内は株式分割前換算の値

	18年度 実績	19年度 予想
当期利益（億円）	795	810
EPS（円）	217	109 (218)
配当案/株	54.0円 中間27.0 期末27.0	28.0円 (56.0) 中間14.0 (28.0) 期末14.0 (28.0)
配当性向	24.8%	25.7%



17/26

最後に配当案です。

2018年度は54円。また2019年度には、株式を分割しましたが、分割前の値で56円。前年から2円の増配を予定しています。

参考資料

事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	478 (-11%)	2,807 (+5%)	849 (+3%)	1,249 (+5%)	382 (+14%)	327 (+4%)	3,285 (+2%)
うちカテーテル※	359 (-12%)	2,276 (+6%)	681 (+3%)	966 (+6%)	357 (+14%)	272 (+4%)	2,635 (+3%)
ホスピタル	1,279 (+4%)	379 (+6%)	95 (+11%)	86 (+8%)	27 (+17%)	172 (+2%)	1,658 (+5%)
血液システム	125 (+5%)	924 (+2%)	260 (+5%)	422 (-2%)	53 (+2%)	189 (+9%)	1,050 (+2%)
合計	1,885 (-0%)	4,110 (+5%)	1,204 (+4%)	1,756 (+3%)	462 (+12%)	688 (+5%)	5,995 (+3%)

※ TIS事業とニューロバスキュラー事業の合計

() 内は為替影響除く前年比伸長率



19/26

販管費

(億円)

	17年度	18年度	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	844	874	+30	+4%	+4%
販促費	178	182	+4	+2%	+3%
物流費	126	136	+10	+8%	+9%
償却費	137	143	+6	+4%	+5%
その他	425	451	+26	+6%	+7%
一般管理費計	1,710 (29.1%)	1,787 (29.8%)	+76	+4%	+5%
研究開発費	413 (7.0%)	477 (8.0%)	+63	+15%	+15%
販管費合計	2,124 (36.1%)	2,263 (37.9%)	+140	+7%	+7%

四半期の動き

(億円)

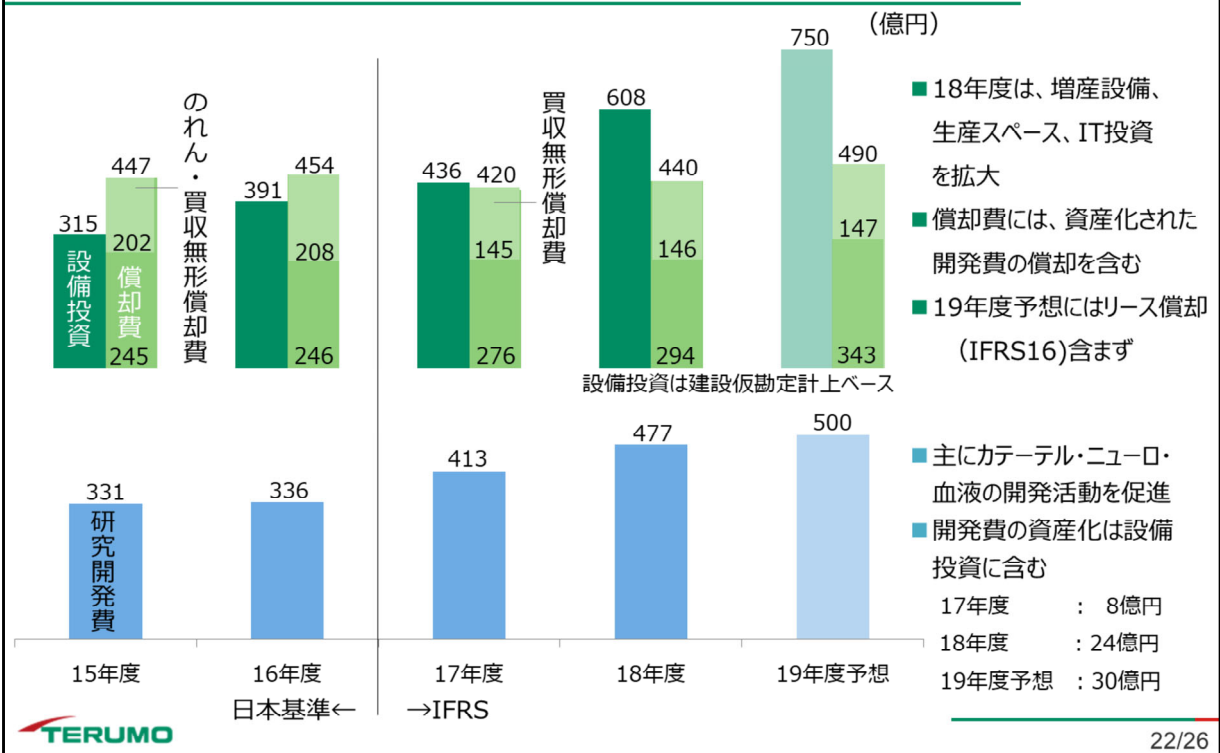
	17年度Q4 (1-3月)	18年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)
売上収益	1,508	1,430	1,420	1,586	1,559
売上総利益	807 (53.5%)	799 (55.8%)	747 (52.6%)	876 (55.2%)	843 (54.1%)
一般管理費	459 (30.4%)	435 (30.4%)	435 (30.5%)	450 (28.4%)	467 (29.9%)
研究開発費	124 (8.2%)	113 (7.9%)	124 (8.8%)	123 (7.7%)	116 (7.5%)
その他収益費用	- 4	8	29	6	21
営業利益	220 (14.6%)	259 (18.1%)	217 (15.3%)	309 (19.5%)	282 (18.1%)
調整後営業利益	274 (18.1%)	305 (21.4%)	248 (17.4%)	359 (22.6%)	309 (19.9%)

四半期	USD	108円	109円	111円	113円	110円
平均レート	EUR	133円	130円	130円	129円	125円

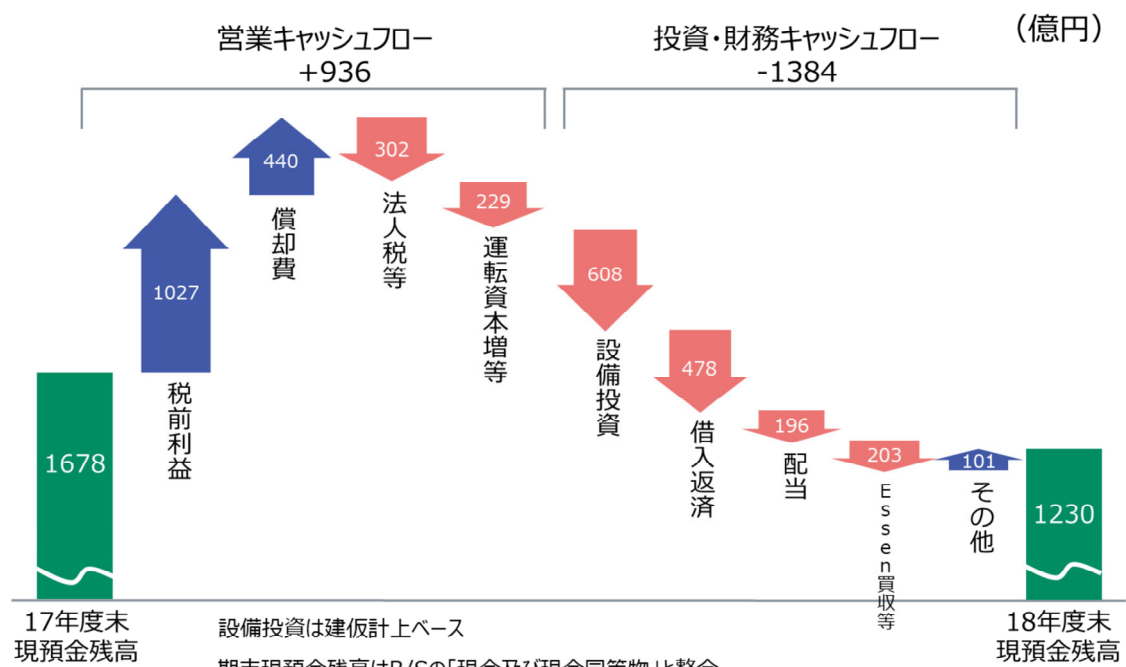
 TERUMO

21/26

設備投資と研究開発費



18年度キャッシュフロー



為替感応度

1円の円安に対する年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	22
調整後営業利益	0	5	12

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	19	36

転換社債の状況

■ 社債明細 (2014年12月起債)

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,927円	2,505円	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,927円	2,505円	約26百万株
計	1,000				約52百万株

■ 転換状況 (2019年4月30日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	500.0億円 (100.0%)	25.9百万株 (3.4%)
2021年12月満期	252.1億円 (50.4%)	13.1百万株 (1.7%)
計	752.1億円 (75.2%)	39.0百万株 (5.1%)

➤ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

・自己株式の状況：16.4百万株 (2019年4月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比2.2%)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。